「読み」とその先の活動を通じた主体的な言語学習観育成の実践と分析

東京電機大学中学校・高等学校 英語科　濵口　莉花

実践年度 2025年

実践背景

【課題】

■英語は「どうせ読めない」

理系の生徒が多く、文系教科を好まない雰囲気があり、
内発的動機づけがされにくい。

■学習量の少なさ

英語嫌いが影響して勉強時間・量ともに不足した結果
高学年になっても、長文問題を解くことはおろか、
最後まで読み切る集中力がない様子が散見される。

■「読み」の種類の乏しさ

世代全体の傾向として、どの言語においても読む経験に乏しく、
「読み」のアプローチを知らない。

【目標】

■ツールとして英語観・自己効力感の獲得、内発的動機づけ

英語で知識を得たり、物語を楽しんだりする体験を通じて、
外国語は情報収集の媒介・手段であるという認識を得ること。
卒業後の将来をも見据えた内発的動機づけを促すこと。

実践方法

【実践対象授業】

■科目　英語コミュニケーションⅡa　週3単位

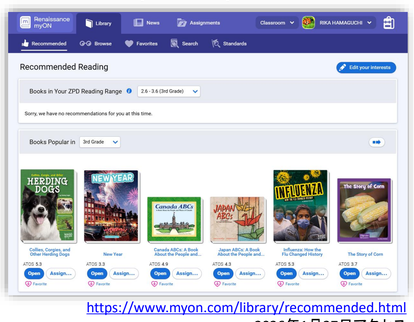
■学年・クラス　高校2年生　基礎一貫コース2クラス
文系1クラス38名/理系1クラス40名

■実践期間　2025年度1学期(6月)～2学期(12月)

【実践内容】

■多読課題の設定

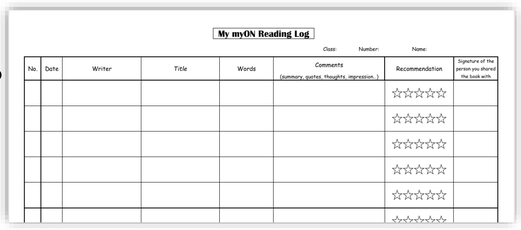
自宅学習課題として、多読を設定した。
主にmyON®(myON®)という英語学習用デジタル図書館のサービスを利用した。
なお、ログイン時間・コンテンツ内クイズ正解数を平常点に加味した点、myON のテクストを音読テストで使用した点は、利用を促した要素として考慮される。



https://www.myon.com/library/recommended.html
2026年1月27日アクセス

■生徒の活動とねらい

①コンテンツ内から任意の本を読む。
- 本の単語数・ページ数・難易度は不問。
- 冊数を増やすことが目標。
- 低学力層の抵抗感の緩和。



読書記録用ワークシート"My myON Reading Log"

②読んだ本の記録を "My myON Reading Log" に記入する。
- 読んだ量の可視化。　→達成感の付与。
- レビュー記入による「参加型」の読み。
(・2026年共通テスト第5問の本のレビューに類似。)

③記録内容をクラスメイトに共有し、サインをもらう。
- 本の紹介＝自分の読みの活動の報告。
- 読むだけで終わらせない「発信型」の活動。
- 協同学習方略

④学期の最後に提出する。

取得データおよび検証方法

■アンケート

①選択方式　事前(6月)・事後(12月)の計2回
②選択/記述方式　事後(12月)のみの1回

■読書記録ワークシート　読んだ本の冊数/コメント欄の記述

結果

■アンケート　選択方式

質問項目：内容関与的動機、自己効力感、メタ認知的方略、精緻化方略
解答：「1…全く当てはまらない」～「6…とてもよく当てはまる」の数字で回答する。

【事前(6月)から事後(12月)の変化】

	文系クラス			理系クラス		
	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量
内容関与的動機	3.40	3.07	−0.33	3.31	3.01	−0.30
自己効力感	2.24	2.37	0.13	2.23	2.50	0.28
コントロール	2.88	3.43	0.55	2.41	3.22	0.81
モニタリング	2.99	3.30	0.31	3.29	3.32	0.03
精緻化方略	2.82	3.08	0.26	2.78	3.01	0.23

【変化に関する認識(12月)】

	文系クラス	理系クラス
内容関与的動機	2.79	2.94
自己効力感	2.54	2.80
コントロール	2.80	3.03
モニタリング	2.38	2.74
精緻化方略	2.66	3.13

■アンケート　記述方式

質問：「効果があったこと、逆に不便だと感じたことはありますか。」

回答例
文系：「最初はゆっくりと練習し、徐々に速度を上げて読むと、少し楽に音読できた。」
「本文だけでなく色々な文章を読めるのが楽しかったです。 ニュースを読むのが特に気に入ってました。」
理系：「色々な話が知れて面白いものです」
「英語に触れる機会が増えた」
「効果があったことは、英語が好きになった」
「英語に文章をすらすら読めるようになった。毎日継続する力がついた。」
「単語の発音に注目していたので、発音がきれいになったと思う。」
「リスニングが強くなったと思う。」　など

■ワークシート

・冊数の増加 (右表)
・コメント欄の変化

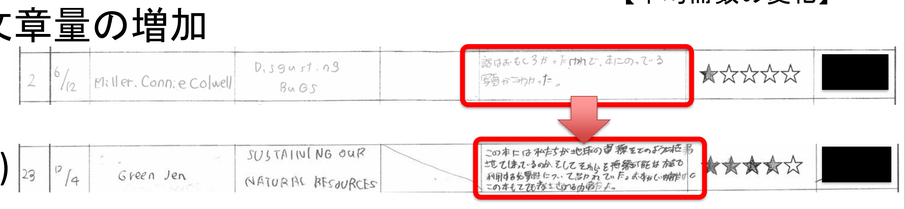
	1学期	2学期
文系クラス	4.2 →	5.8
理系クラス	3.1 →	5.9

【平均冊数の変化】

例)生徒A: 文章量の増加

事前(6月)

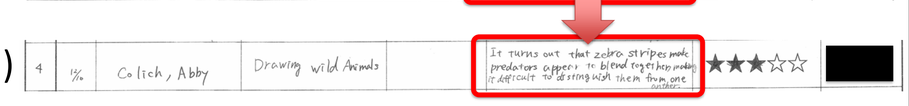
事後(12月)



例)生徒B: 日本語→英語への変化

事前(7月)

事後(12月)



考察と今後の課題

両クラス共通の変化

・【内容関与的動機】・・・低下
ただし、「私は英語が好きだ」のみが低下
ほかの項目(例:「私は英語で読書をしたい」等)は増加

・【自己効力感】・・・増加

文理クラス間の異なる変化

・【コントロール】わからない単語への対処法
「文脈から意味を推測する」・・・文系 増加　/　理系 減少
「辞書・翻訳機能で調べる」・・・文理ともに増加
⇐理系：本来の多読とは異なるが、調べる習慣がついた

・【モニタリング】わからない文法構造への対処法
「文の構造を整理するために印を記入する」
・・・文系 増加　/　理系 減少
⇐文系　自分の理解を可視化するという意識
⇐理系　パソコン方式の英語試験への意識・対策

・【精緻化方略】
「英語の文章を読みながら単語/文法を勉強する」
・・・文系 増加　/　理系 減少
「単語を覚える時、その単語が出てきた文章の内容と一緒に記憶している」　・・・文理ともに減少
⇐多読で精緻化方略を学ぶのは困難

展望：　「ツールとしての英語観」の育成
「4技能の総合的な活用×方略の習得」 による脱暗記